

2009年（平成21年）

# ハタハタ情報 No.2

平成21年11月2日発行

北海道立中央水産試験場 資源管理部

Tel : 0135-23-8707 Fax: 0135-23-8709

—インターネットからもご覧いただけます— ↓

マリンネット北海道 : <http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp>

中央水試調査船おやしお丸によるトロール調査（留萌沖）の結果を報告します。

【調査期間】 2009年10月23日～10月28日

【調査海域】 雄冬岬沖の水深200～260mの海域にて、9調査点で小型トロールを曳網しハタハタの採集試験を行いました。

- 1マイル曳網あたり11.3尾の採集。水深240～250mで多く採集される。
- 魚体サイズは体長140～170mmが主体で、1歳魚（2008年級）が全体の約74%を占める。
- 成熟の進行状況から、沿岸への来遊見通しは11月中旬頃。

## 1. ハタハタの分布状況（図1）

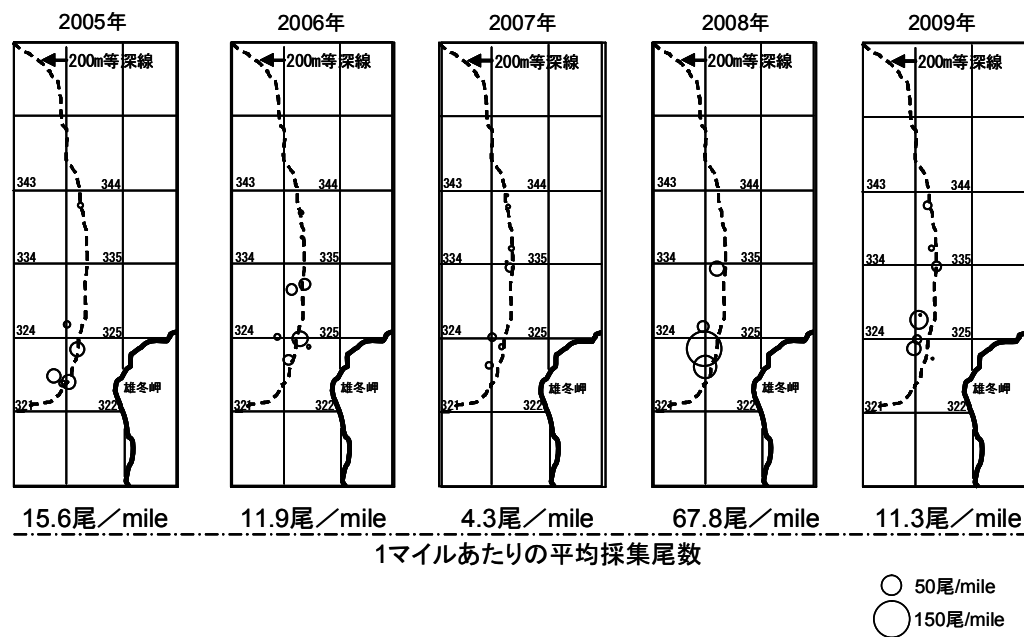


図1 10月下旬トロール調査による採集尾数

今回の9調査点におけるハタハタの平均採集尾数は1マイルあたり11.3尾でした。先月の調査（前報参照）では、雄の1歳魚を主体に採集尾数が多かったのに対し、今回は、著しく採集尾数の多かった2008年を除くと、ほぼ平年並みの採集状況となりました。今回、最も多く採集されたのは、図中に示す海域の水深240m付近でした。今回も、全調査点でハタハタが採集されましたが、今年採集の多い海域と少ない海域が明瞭で、分布密度にむらがあるようです。

## 2. ハタハタの魚体サイズ (図2)

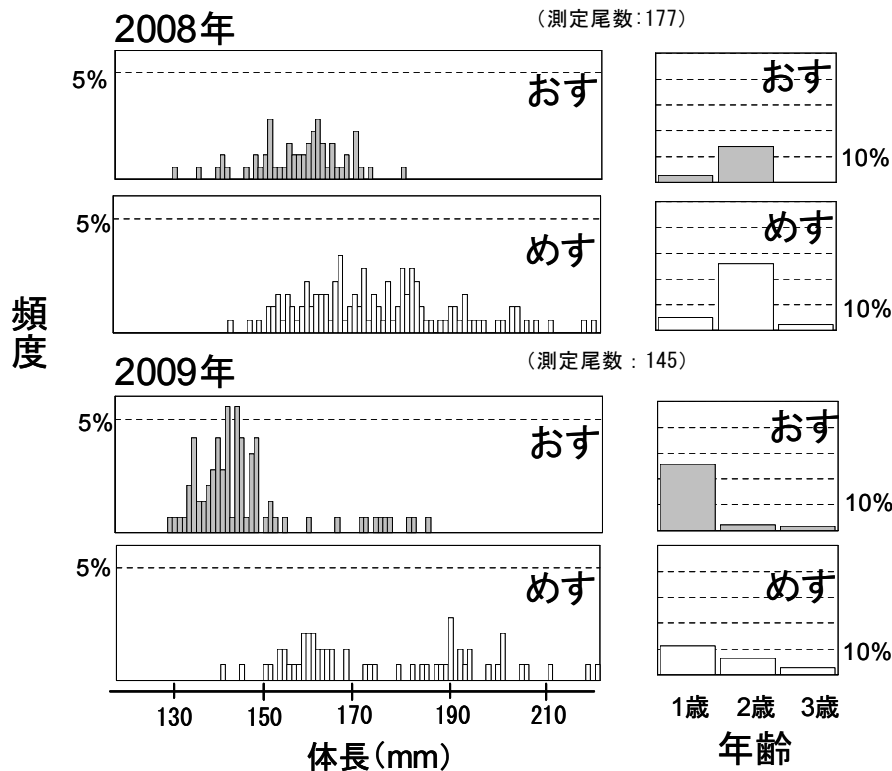


図2 今回10月下旬の調査で採集されたハタハタの体長組成と年齢組成  
 上段図：昨年(2008年)調査 下段図：今回の調査

今回の調査で採集されたハタハタの体長も、9月下旬と同様に、昨年(2008年)と比べると小型であり、雄で140~150mm(昨年は160mm台)、雌で150~170mm(昨年は170mm以上)が主体となっていました。

採集されたハタハタは、1歳魚(2008年級)が約74%でした。9月下旬調査時(1歳魚88%)と比べると、2~3歳魚の多くを占める雌の採集が増えてきたことで、やや1歳魚の割合が下がったとみられます。昨年漁期の主体となった2006年級群もある程度は漁獲対象となりそうですが、雌の年齢構成も1歳魚が主体となっており、やはり、今漁期の漁獲物は1歳魚主体となる可能性が大きいようです。

## 3. 成熟状態(次頁、図3)

ハタハタは成熟状態(生殖巣の発達状態)が進むにつれ、南下し沿岸にて産卵することが知られています。雌の体重に占める卵巣重量の割合(GSI)は産卵が近づくにつれて大きくなり、沿岸に来遊する頃には40%前後の値となります。今回の調査で採集されたハタハタ雌のGSIは、10月23~25日の時点で、1歳魚で19.8%、2歳魚で24.6%と、過去同時期の値と比べると、2006年以降と同程度の水準となっています。今後の海況などにも影響されますが、沿岸への来遊時期は、ここ2~3年と同じく、11月中旬頃が目安と考えられます。

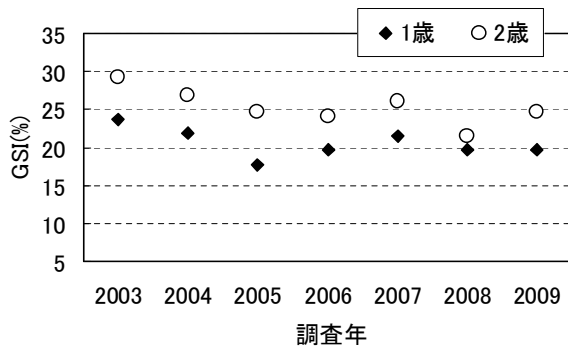


図3 毎年10月下旬のハタハタ雌のGSI  
(GSI=卵巣重量/内蔵除去重量×100)

#### 4. 水温 (図4)

今回の調査の中で行ったCTDによる雄冬沖(321漁区北側)の表層から底層にかけての水温測定結果を、過去4年間の平均値と併せて示しました。水深70m前後までは例年よりやや低めの水温分布となっておりますが、それより深いハタハタの分布域となる海域では、例年同様かやや高めとなっております。

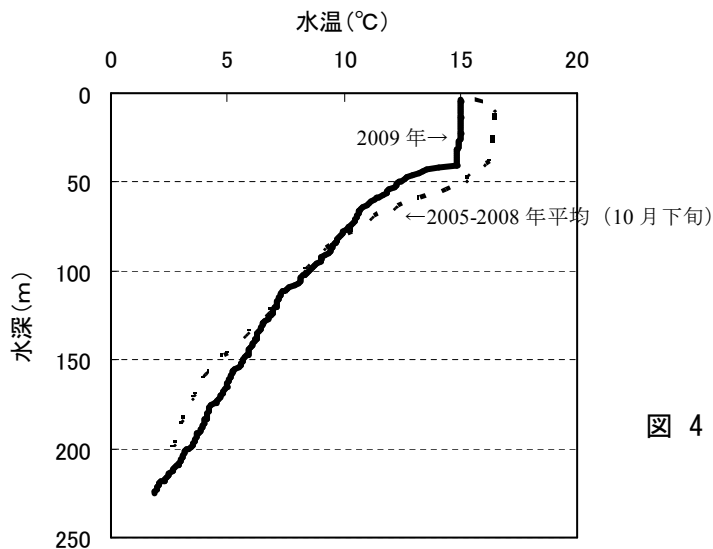


図4 雄冬沖の水温分布  
(10月下旬)

#### 5. 今後の調査など

次回のおやしお丸によるトロール調査は、11月2週目を予定しております。調査海域は、雄冬～留萌沖を中心とする同様の海域となる予定です。付近海域で操業中の漁業者の皆様には何卒ご配慮いただきますよう、よろしくお願いいたします。また、漁期中には漁獲物標本の採集調査も実施いたしますので、重ねてご協力をお願いいたします。